第21回熱帯医学研究コース修了式挙行

熱帯医学研究所では，12月10日㈮に第21回熱帯医学研究コースの修了式を実施しました。

同コースは，昭和58年度から文部科学省および国際協力機構の協力を得て開設されているもので，開発途上国の研究者に対して，12ヶ月間にわたり，ウイルス学や寄生虫学等を研究する機会を提供し，熱帯地にはびこる熱帯病及び各種感染症の予防，撲滅に貢献することを目的としています。修了式では，青木所長からフィジー，モーリタニア，ザンビアなど７カ国８名の研修員一人ひとりに修了証書を手渡し「帰国後も熱帯医学研究所で学んだことを生かしてほしい。また帰国された後も熱帯医学研究所の教官と連絡を保ち，熱帯病制圧に努力してほしい。」と挨拶がありました。齋藤学長の祝辞，国際協力機構の佐佐木業務第２チーム長の祝辞の後，研修員全員が，それぞれ日本での思い出や関係者への感謝の言葉を述べました。

本研究所ではこれまでに，アジア，アフリカ，中南米，東欧地域の39カ国159名の研修員を受け入れています。

祝辞を述べる齋藤学長

記念撮影

（熱帯医学研究所）

第16回長崎大学ファカルティ・ディベロップメント開催

〝ディスカッションをしかける，「つながり」を創る　―学生の議論を促す「教養セミナー」授業づくり"をテーマとして掲げ，第16回長崎大学ＦＤ（教育改善委員会主催）が12月11日㈯に総合教育研究棟多目的ホールで開催されました。

全学教育科目の教養セミナーにおいては，学生及び担当教員の双方から学生の発言が少なく，活発な議論が展開されないという共通の指摘がなされております。

当日は51名の参加があり，「活発な議論を展開させるための「しかけ」について教員間で工夫し，授業現場へ活用する」では，今年度教養セミナーを担当された堀内伊吹（教育学部），石松隆和（工学部）の両教授による事例発表をもとに，ディスカッションをどう促すかをテーマとして活発な議論が行われ，「シラバス作成（授業デザイン）活動を通して来年度の授業設計基本方針を確認すること」では，ワークショップ形式でより良いシラバス作りが試みられました。

なお，今回のＦＤのワークショップにおいて作成されたシラバスは，来年度教養セミナーを担当される教員の授業設計の参考となるように，長崎大学ホームページにて公開されます。

グループ内ディスカッション風景

（大学教育機能開発センター）